令和元年度刀根山支援学第２回学校協議会議事録

日時　令和元年 11 月 18 日（月）１５：００～１６：３０
場所　本校　会議室
出席者（敬称略・50 音順）
　委員　　井村　修（奈良大学社会学部　教授）
　　高畠　俊英（豊中市教育委員会児童生徒課　主幹）
　　中里　ましほ（大阪府立刀根山支援学校　PTA 代表）
　　平賀　健太郎（大阪教育大学教育学部　教授）
　　山田　亨（学校法人大阪滋慶学園　教育顧問）

１　校長挨拶及び本校教育部文化祭展示視察

２　協議事項「学校経営計画の進捗状況について（前期活動報告を含めて）」【委員からのご意見・ご質問】

①　切れ目のない支援の推進

＊主な取り組み
　○近畿・東海・北陸地区病弱虚弱教育研究連盟滋賀大会発表
　○ロボットプログラミング選手権 2019 結果報告
　○大阪府 IT ステーションとの連携

○学習や連携が就労とつながるといい。やりたい、やってみたいと思い描いたことが、ICT があると表現できる。本来の能力を発揮できる。府が障がい者の採用を積極的に行っている。
○自分から誰かの役に立っているという感覚が大切。
○仮説実験授業は懐かしい。「主体的・対話的で深い学び」に使えると思っていた。
○ICT 機器は、どこまで何を入れていったらいいのかが難しい。
○子どもは ICT 機器を使うことが大好きでとても意欲がある。楽しく帰ってくるが、就労につながっていない現状がある。ここで止まってしまうのが残念。
○こうしたスキルを自分の仕事としてつなげていきたい。OB からも就労につなげたいという声を聞く。

②　専門性の向上と支援の継承

＊主な取り組み
　○わになるシート活用状況報告
　○がんプロジェクトへの協力
　○地域支援活動状況報告

○「わになるシート」はなかなかおもしろい。高校生活支援シートが導入された時には、保管や活用など、いろいろと問題になった。実際は、必要とする生徒もいるため、こういうアンケートは必要ではないか。
○「わになるシート」の項目によっては、逆に自尊感情を低めてしまわないか。
　⇒人間関係ができていないときには難しいので、実際は約 1 か月後に行っている。

○「わになるシート」で、本人が変化を見るということもできる。
○「わになるシート」について、大学ではこうしたシートを書く場合、同意書がいる。保護者の理解を得ていくとよい。
○がんプロジェクトについて。学校教育は医療からの理解が難しい。しかし、こうしたツールが用意されていることはすばらしい。連携が大切。地域に専門性を伝えていってほしい。
○支援学校の専門性はありがたい。
○地域支援で、この病気は段階的に症状が出る。先生から病気について○○の時はどうしたらいいですかと聞かれることがあるが、保護者は不安なのに、聞かれてもわからない。地域支援として、もっとこうした学校を発信してほしい。学校から聞いていないと、こんな相談ができることを知らない人もいる。保護者にも、もっと学校から伝えてほしい。

③ 安心・安全の学校づくり
○例えば明日、何か緊急事態が起こったとき、どうなっているか。保護者は不安です。学校であずかってもらいたいケースもある。
⇒状況に合わせて対応を行います。何かあればすぐにご連絡ください。
○緊急時　保護者との連絡はどうなっているのか？
⇒生徒の人数が少ないので電話連絡を行っている。
○BCP という言葉はここで知ったが、学校で作るのは大切。
○研究したところ、緊急時に電源のバッテリーがあるかといった不安要素がある。マンションから降りるときに、エレベータが止まってしまうとどうなるか。今後取り組む課題である。

3　阪大分教室訪問について（委員より）
○半日しっかりと見た。できないことを嘆き悲しむよりも、できたことをこのように発表していくことはよいことだと思われる。

4　教科書採択結果について

5　その他
今年度の予定
第３回　令和２年２月 17 日（月）